

質問

はどのようなものですか。

60代の男性です。がんに対する放射線治療の効果や副作用について教えてください。また、粒子線治療と



答え

「放射線治療は手術がでないがんに用いる副作用の多い治療」。そんな印象を多くの人が持っているかもしれませんが。

確かに、進行したがんに対して放射線治療を行う場合、広範囲に放射線を照射する必要があるので、副作用が多くなる上、がんを完全に治すことも難しくなります。

しかし、がんが小さければ副作用は少なくなり照射量を増やせばいいので、がんを治せる確率は高くなります。



生島 仁史

徳島大学病院
放射線治療科科長

放射線治療の効果や副作用

小さながんに対して臓器の形態や機能を保ったまま治せることが、放射線治療の本来の利点なのです。

例えば、初期の声帯がんに対して放射線治療を行えば、発声機能を損なうことなく、がんだけを消すことが可能です。欧米では、初期のがんに対しても積極的に放射線治療が適用されており、がん患者の中で放射線治療を受ける人の割合は60%に達しています。

日本でも最近増えてきましたが25%にすぎません。背景には、手術や抗がん剤が治療の主体となってきた経緯があります。しかし1990年代以降、次々に登場したハイテク技術により、放射線ががんを治す能力は格段に向上し、切らずに治す治療法として認識されるようになってきました。

放射線治療の方法は大きく二つに分けられます。一つは、体の外からエネルギーの高い放射線を照射する外部放射線治療。もう一つは、放射

線を出す小さな金属をがんに近接させて照射する小線源治療です。

前者は、がん治療を行って大きな病院には必ず治療設備がある一般的な治療で、多くのがんが対象となります。1カ月以上かけて毎日行いますが、1回の治療は数分で終了し、痛みはありません。

一方、後者は大学病院など限られた施設にしか設備がない特殊な治療法で、前立腺がんや子宮がんが対象となります。

また、ピンポイント治療などと呼ばれる高精度外部放射

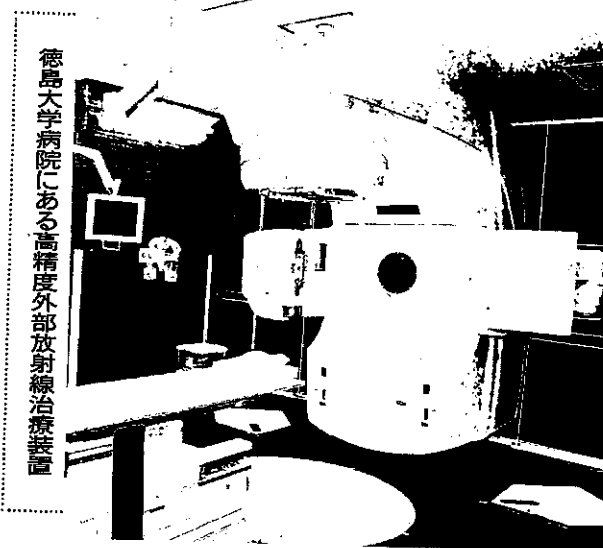
質問募集 がんに関する悩みに「徳島がん対策センター」がお答えします。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770-8597 徳島新聞社文化部「がん相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。同センターへ電話088(6366)94338(でも平日午前8時半〜午後5時に受け付けています)。

線治療は、正常臓器を避け、がんを放射線を集中させることのできる照射法です。この療が効かないがんや小児がんなどで威力を發揮しますが、技術により、治療成績の向上と副作用の低減がもたらされました。

最近、マスメディアでよく取り上げられている粒子線治療は、高精度外部放射線治療の一種です。一般の放射線治療が効かないがんや小児がんなどで威力を發揮しますが、高額の設備投資が必要のため、全国で数施設にしか設置されていません。徳島県内の人なら、兵庫県などの施設で治療を受けていたことになりそうです。保険適応はなく300万円ほどの自己負担が必要となります。

がんが進行して治すことが難しくなった場合でも、症状を緩和することで患者の生活の質を向上させることも、放射線治療の重要な役割です。がんが骨に転移したことでよる痛みは、80%以上の確率で和らげることが出来ます。

がん治療の歴史は、体への負担をより小さくする治療法開発の歴史ともいえます。高齢化が進む中で、高齢者がかかりやすい病気であるがんに対して、負担の小さい放射線治療が果たす役割は、今後さらに大きくなっていくと考えられています。



徳島大学病院にある高精度外部放射線治療装置

技術向上し負担軽減